南箕輪村むらづくり委員会（第 25 回）会議録

令和７年 10 月７日（火）午後７時～７時 50 分
場所：南箕輪村役場　講堂

出席者
足立 芳夫 委員（会長）、松田 聖一 委員（職務代理）、山岡 勉 委員、長谷川 義隆 委員、加藤 直樹 委員、高木 武 委員、唐木 茂人 委員、酒井 きよみ 委員、清水 真知子 委員、伊澤 武善 委員、田口 和弘 委員、小椋 信子 委員、平野 幸代 委員、千 菊夫 委員、富岡 順子 委員、吉川 つづり 委員、三澤 聡 委員
（事務局）
地域づくり推進課長　高橋、地域づくり推進課企画係長　北原、企画係　小澤
欠席者
伊久間 美昭 委員、北原 泰司 委員、清水 克俊 委員、菅家 美果 委員、新村 典久 委員、橋場 麻衣子 委員、入倉 眞佐子 委員、宮坂 大樹 委員、原 和彦 委員、井口 千鶴 委員、稲生 正徳 委員

1. 開会

松田職務代理より開会の言葉があり、開会した。

2. 会長あいさつ

足立会長より前回に引き続き、人口ビジョン、総合計画前期計画及び創生総合戦略の答申案について審議していただきたい旨のあいさつがあった。

3. 協議事項

本日の協議事項は、南箕輪村人口ビジョンの答申（案）、第 6 次総合計画前期計画・創生総合戦略の答申（案）、その他であった。

（1）南箕輪村人口ビジョンの答申（案）について

前回の会議において指摘された点について、資料に基づき事務局より説明。「特化係数」な

どの分かりづらい表現について、注釈等をつける要望等が出されたため対応することとなる。そのほか、特段の意見はなく了承される。

（2）第 6 次総合計画前期計画・創生総合戦略の答申（案）について

委員から、文章表現の分かりにくさについて複数の指摘があった。主として、我が国の状況と新興国を含む周辺状況との関係、温室効果ガスの発生増大と生態系サービスの崩壊リスクの増加という二つの論点の並列性、及び文中の主語・述語の対応が分かりにくい点が問題として示された。

特に、長文が続くことで論旨の把握に時間を要すること、森林・海洋等の自然生態系に「何が」被害をもたらすのかが読みにくいこと、「生物多様性の損失からなる」との表現の意味が分かりにくいことなどが挙げられ、より簡潔で理解しやすい文への修正が求められた。

これに対し別の委員からは、我が国のエネルギー需要縮小の状況と、それを取り巻く国際的な状況とを区分して記述する方法や、途中で文を区切って段階的に説明する方法が提案された。

さらに別の整理案として、冒頭部分で我が国の状況と新興国のエネルギー需要拡大を接続した上で、その結果として温室効果ガスの発生増大や生態系への影響につなげる表現も示された。

事務局からは、従前から指摘を受けてきた箇所であり、このままでは分かりにくいとの認識が示された。その上で、文章の具体的な修正は、事務局、会長及び職務代理等で相談の上、分かりやすい表現となるよう整理する旨の説明があった。

本議題について、他に意見はなく、協議事項（2）を終了した。

（3）その他

委員から特段の追加協議事項はなかった。

4. その他

事務局から、今後の日程等について説明があった。

- 10 月 14 日（火）午前 10 時から正午まで、村長室において、第 6 次総合計画、総合

戦略、人口ビジョンの答申を行う予定である。

- 11 月 25 日（火）の委員会を追加し、都市マスタープランの検討を行う予定である旨の説明があった。これは、都市マスタープランについてむらづくり委員会に諮問される見込みとなり、答申に向けた検討日程を確保する必要が生じたためである。
- その後、都市マスタープランについて答申案を確定し、12 月 23 日に答申へつなげたい考えが示された。
- 10 月 24 日（金）午後 1 時から 4 時 30 分まで、役場講堂において、総合計画オリジナルゲーム「南箕輪村 Future2040（仮称）」のテストプレイを実施する予定である。参加者は役場職員のほか、参加を希望するむらづくり委員等である。
- 第 26 回むらづくり委員会は、10 月 28 日（火）午後 7 時から役場講堂で開催予定であり、次回は総合戦略の検証が議題となる旨の説明があった。

会長からは、都市マスタープランについて、当初想定よりもむらづくり委員会での審議作業が増えることになったため、短期間ではあるが内容を精査した上で答申を行いたいとして、追加開催への協力依頼があった。

5. 閉会

松田職務代理より閉会の言葉があり、閉会した。